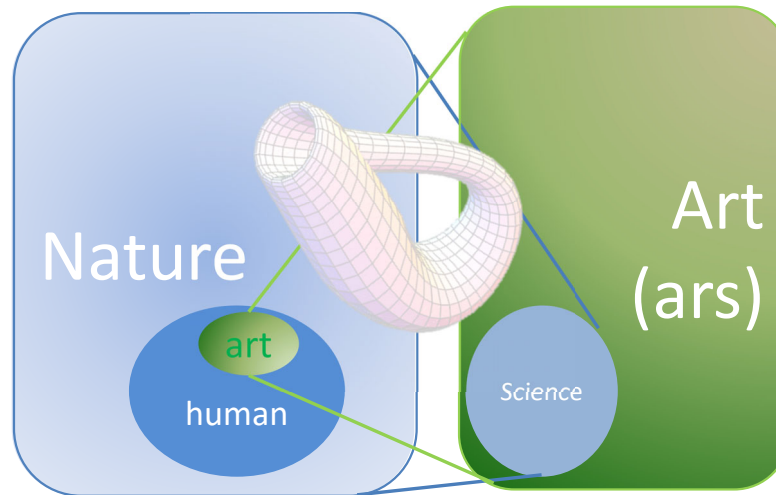


Hideo Iwasaki

hideo-iwasaki.com/

- News
- WORK
- Culturing 'O/Paper'cut
- aPrayer: memorial service for artificial cells/lives
- Microorganism part of aPrayer
- Culturing 'Paper'cut
- Biogenic Timestamp (with Oron Catts)
- Photoautotropica
- CyanoScreen
- An der schönen regenbogenfarbenen Donau
- Metamorphorest Body
- Metamorphorest III
- CyanoBonsai Project
- Visual direction, "Cello in a solitary island"



metaPhorest (2007-present)

BioAesthetics (生命美学)

- 生物学の研究
- 「生命」に関わる芸術・美学の創作・研究
- 生命の科学史・科学技術論に関わる研究

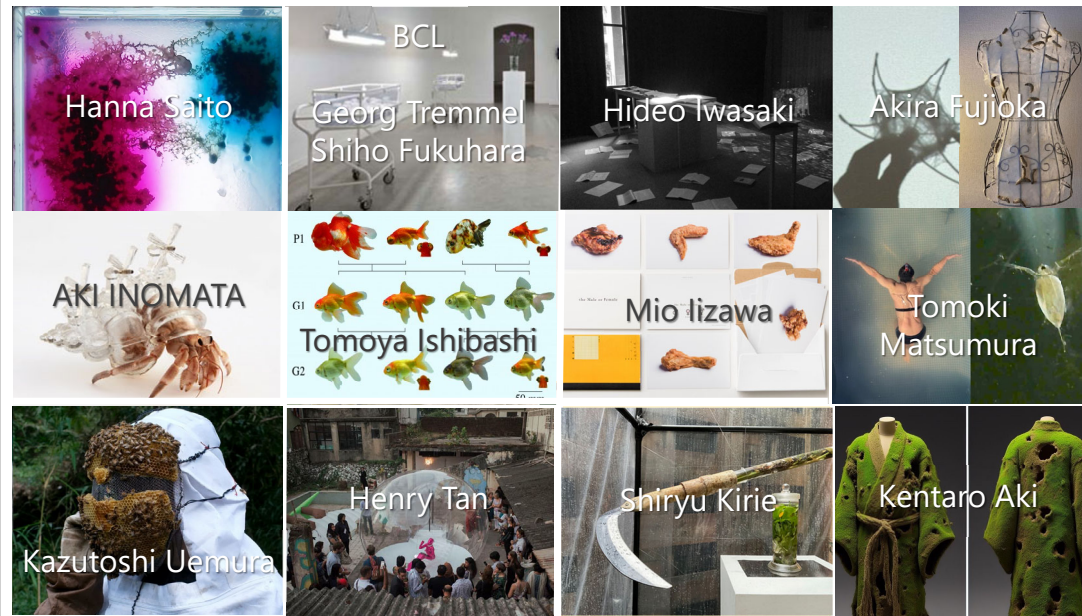


生命・バイオテクノロジーに関心のあるアーティスト・デザイナーにラボの実験環境を提供。創作手法（メディア）は問わない。

アウトリーチのためのデザインには組みしない。批評性を重視する。

今まで20名ほどの作家が滞在・活用

ゆるやかな情報交換・意見交換のコミュニティ



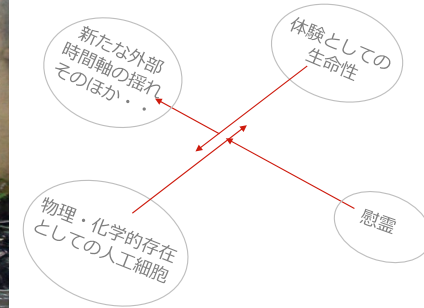
aPrayer

まだ見ぬつくられしものたちの慰霊



茨城県常陸太田市折橋町799
旧酒蔵金波寒月（折橋コミュニティステーション）
茨城県北芸術祭（2016）

aPrayer = a / aesthetic / alternative / artificial / artistic Prayer



ver 1.0 @茨城県北芸術祭：人工細胞と微生物の慰霊

ver 2.0 @韓国のメディアアート祭：芸術に動員された微生物の慰霊

ver 3.0 @人工知能美学芸術展：人工知能の慰霊

6



April 16, 2023



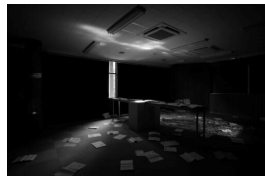
April 16, 2023



『あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう』
津田道子



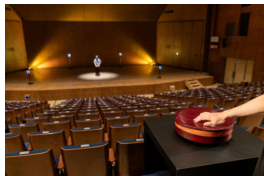
『空気の研究』
三原聡一郎



『Culturing <O/Paper>cut』
岩崎秀雄



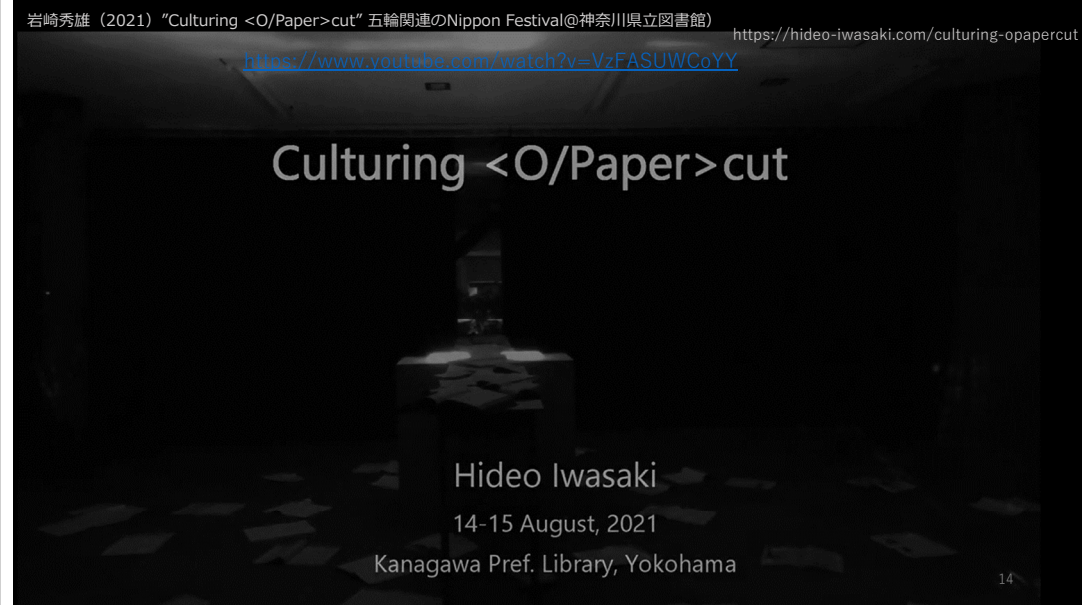
『Ether - liquid mirror -』
佐久間海士



『ステラノーヴァ』
MATHRAX

2021. 8/13-15 (告知なし、無観客)
神奈川県横浜市前川國男建築群
(音楽堂、図書館、青少年センター)
キュレーター：藤川悠 (茅ヶ崎美術館)
主催：東京2020五輪委員会、神奈川県

<https://conpetti.com/news/?p=47664>



横溢する「生命≒音楽」メタファー

Liveパフォーマンス/生演奏

生き生き（生き生き）とした演奏

魂を宿した楽曲

〇〇命



ライブとは何か。ネットで音楽を聴くとき、われわれは何を体験しているのか
哲学、バイオアート、科学技術史、メディア論、音楽学の立場から、メタボース時代の音楽の可能性を問う！

生物学的生命性との対比

	生物学的生命	音楽
タイムベースメディア性	○	○
有機的構成	○	○
大自由度時間発展パターン	○	○
階層性	○	○
リズム、繰り返し	○	○
代謝（エネルギー物質交代/変換）	○	○
個体発生	○	○
系統発生、進化/変異	○	○
物理学的実体	生体高分子など	音素、振動、楽器
物理的環境	生体外環境	音楽演奏の場
情報コード	DNA、エピジェネティクス、周波数応答	楽譜/記譜、演奏家による記憶伝承、録音録画、デジタルメディア
デコーダー	リボソーム、細胞、免疫系、脳-神経系など	演奏家、自動演奏機
自律性	○	○ or △ or x
自己増殖性	○	○ or △
感得者、鑑賞者の要請	△orX（他個体、環境は必要）	○

「生命≒音楽」メタファーから「生命≒ウイルス」メタファーへ？

「音楽自体の自律性・増殖性」への異論：結局人が作ってるじゃん？

→むしろ人を生産工場とするウイルス的システムと考えるのはどうか？

利点：①人が生み出しつつも人の行動を乗っ取り、中毒化させ、再生産に誘う様相

②生命メタファーの一部を温存しつつ、アップデートできる

③素朴な「ウイルス=悪者」の見直し

欠点：①ウイルスのinvisibility（見えにくさ）と違う気がする

⇒ 超巨大ウイルスだと思えばよい？

②そもそもメタファーそのものが「実態」とズレるのは当然

17



Biomedicine art workshop
2009, TWIns

with
Oron Catts, BCL etc

パーソナル・バイオテクノロジー

セバスチャン・コシオバ、片山俊明、若崎秀雄、フィリップ・ボーイング、赤田倫治、contact Gonzo、会田大也、ベジタブル喫茶 ToyToy、伊藤隆之、菅沼聖、高岸文江、津田和俊



基本情報

開催日時

2019年3月1日(金)～3日(日)
終了しました

3月1日(金)
10:30～20:00

3月2日(土)
9:30～20:00

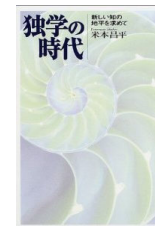
3月3日(日)
9:30～17:00

※3日間通し

会場



米本昌平 (1980) 基本的人権としての真理探究権



→個人がポケットマネーで遺伝子組換え実験

「政治的な」利点
この種の実験の推進の可否について社会の側から発言が増加し、
実験規制の密室的な決め方にも異議申し立てが可能に

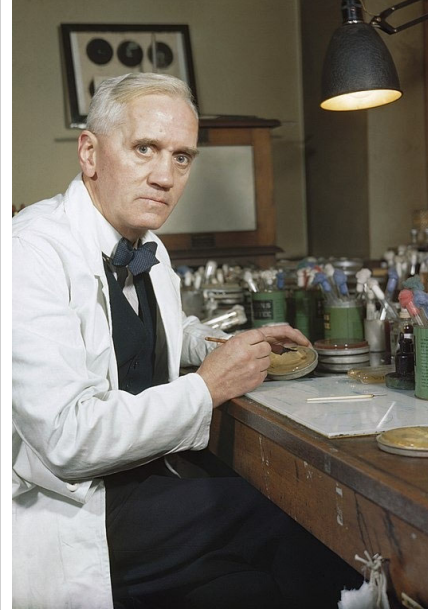
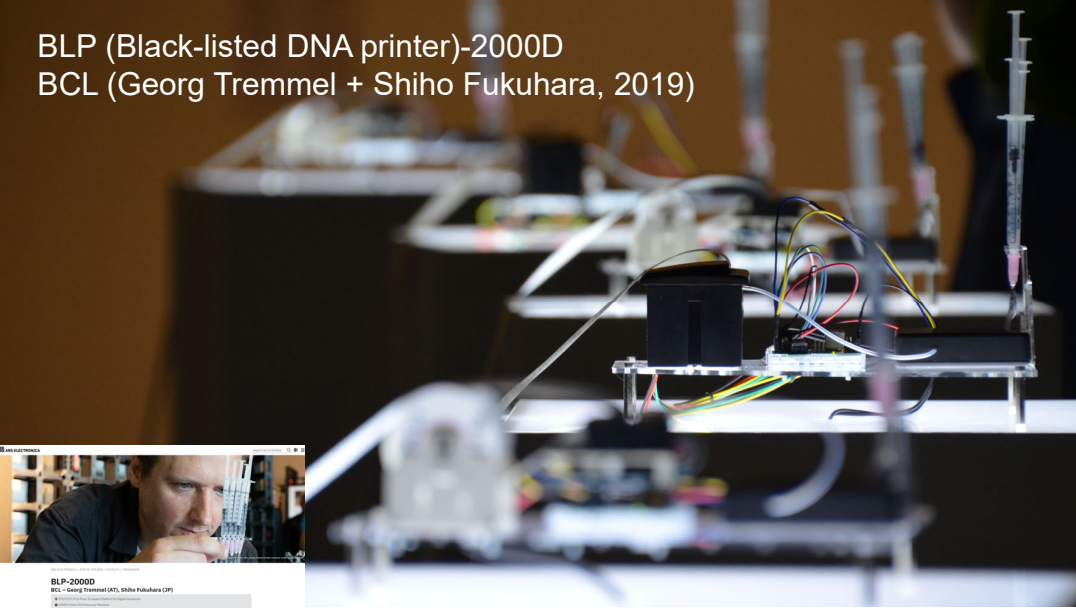
「科学研究の担い手をこのようにして職業科学者の占有から解放
することで、科学と知識の偏在が崩れ、科学者の傲慢、科学の独
走、問題設定の奇形化などに、徐々にフィードバックがかかって
いくはず」



飴屋法水「ダッチライフ」
(1992)



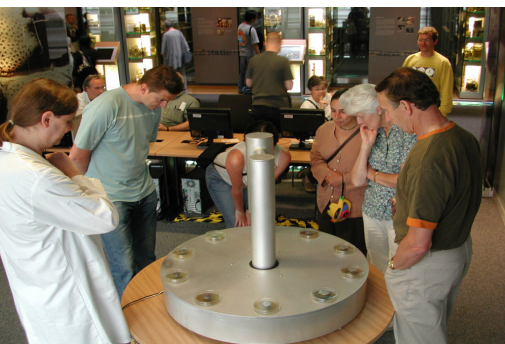
BLP (Black-listed DNA printer)-2000D
 BCL (Georg Tremmel + Shiho Fukuhara, 2019)



Microbial painting by Alexander Fleming



<https://www.amusingplanet.com/2018/02/alexander-flemings-microbial-art.html>



Critical Art Ensemble
 Steve Kurtz

GenTerra creates a means for public action in response to corporate control of the practice of genetic engineering. The first part of *GenTerra* is an installation with information on the current state of transgenics that lets viewers create their own safe, engineered bacteria through the use of a machine. The collective, known as Critical Art Ensemble also create testing kits and organic compounds that participants can use to directly resist such transgenic practices as crop modification that damages organic seed stock. Critical Art Ensemble has presented its original work widely in America and in Europe. *GenTerra* was performed around the world in venues such as the Museum of Natural History in London, and the New Museum in New York.

<p>2005-2006</p>	<p>2011</p>	<p>2015/2018</p>
------------------	-------------	------------------

- DIY (do it yourself) BIO**
- ・ ガレージバイオテック, バイオパンク
 - ・ DIY → DIWO (do it with others)
 - ・ オープンソースの精神
 - ・ 大学・企業による生物学的知見の占有への異議
 - ・ 合成生物学, FabLab との親和性